

テクノロジーと法の未来へ

Vol.26

FACULTY OF
GLOBAL INFORMATICS

国際社会が抱える問題を「情報の仕組み」と「情報の法学」の視点で
分析・解明し、解決策を論理的に構築する、ITL独自の学びに迫ります。

はじめに

私は村田ゼミに所属し、主に「情報の伝達」について研究しています。これまでは、ネットニュースの見出しや大学が発信しているソーシャルメディアガイドラインといった、文字情報を分析対象にした研究を行ってきました。

また、ゼミ活動の一環で2つの映像制作を行い、いくつかのコンテス



学際的思考力と 多様な表現力を高めるために

国際情報学部国際情報学科4年
私立中央大学高等学校(東京都)出身

えんどう はやて
遠藤 颯

トで賞を受賞することができました。今回はゼミや自身の研究、映像コンテスの制作について紹介します。

ゼミ活動の様子

ゼミの目標は、問題の要因をさまざまな視点から分析し、データを用いて効果的に表現することです。授業では、論文作成に必要な資料やデータの収集を事前に行い、一人ずつ報告を行います。同期メンバーの研究テーマは多岐にわたり、歌詞、広告、消費活動、新聞、アイドル、アニメ、



村田先生とゆかいな3期生メンバーたち

キャラクター、ファッション、ライトノベルなどを対象にした個性豊かな研究が行われてきました。

異なる分野に興味をもつメンバーとの討議は、自分だけでは気がつかなかった学びを得る機会になります。お互いの研究をより良いものにするために、知識や意見をなるべく共有する姿勢で活動しています。話が盛り上がり、授業が時間ぎりぎりになることも少なくありません。

研究内容を適切な表現方法で伝えるために、アカデミックライティングやプレゼンテーションスライドのデザインについても学んでいます。論理構成、書式、配色などの細部まで意識しながら、目的に沿った情報発信を行えるように技術を磨いています。

私のこれまでの研究

2年次後期ではネットニュースの見出しに着目し、ニュース記事における情報の省略について研究しました。見出しと本文とを比較分析した結果、見出しでは時期や場所、発生

理由の要素が省略される傾向にあることがわかりました。また、ニュースに関連する知識を読者があらかじめ持っていることが、省略の発生する要因の一つではないかと考察しました。

3年次前期には、国内大学のソーシャルメディアガイドラインを対象に、全体および設置形態ごとの特徴を研究しました。その結果、ガイドライン全体としては人的リスク、組織リスク、SNSの説明、モラル・マナーの4つの主題に分類できるところが明らかになりました。設置形態ごとの特徴として、国立大学は人的リスクと組織リスク、私立大学はSNSの説明とモラル・マナーの主題を多く含むことがわかりました。また、生成系AIガイドラインを分析した先行研究と比較し、国立大学はリスクを重視した内容、私立大学は学生の利用状況を反映した内容のガイドラインを発表する傾向にあると考察しました。

以上の2つの研究の最中には、研究の目的と手段を混同しないように



消費者トラブル未然防止啓発動画コンテスト
 受賞メンバー



八王子学生 CM コンテスト受賞式の様子



八王子学生 CM コンテスト受賞作品

今回のグループ制作では、私は2つのコンテストに挑戦しました。同じゼミの上野恵嗣さん、上田梨々菜さん、佐川峻太郎さんとのグループでは、消費者トラブルの防止をテーマにした映像を制作しました。新成人や学生が被害に遭いやすいイン

ターネット上の悪質な広告を題材に、ホラー演出を取り入れた作品に仕上げました。この作品は豊橋市の主催する「新成人、だまされちゃ188（嫌や!!）消費者トラブル未然防止啓発動画コンテスト」において優秀賞を受賞することができました。同じゼミの中西涉さん、山中媛乃さん、佐川峻太郎さんとのグループでは、「八王子で暮らす」をテーマにした動画CMを制作しました。オリジナル音楽とともに八王子のさまざまな場所をしりとり形式で紹介し、見る人が楽しめる作品をめざしました。その結果、「令和5年度八王子学生CMコンテスト」で最優秀賞、「関東デジタルコンテンツ・アワード2023」で関東総合通信局長賞を受賞することができました。

どちらの映像も限られた映像時間内でメッセージを伝えるために、5WIHを意識しながら絵コンテや仮映像を制作し、綿密に撮影の準備を

する必要を実感しました。授業のレポートや討議は、自分が行っていることを言語化し、客観視することにつながったため、目的を見失わずに研究を進めることができました。

映像制作

3年次後期には、デジタル技術を用いた表現・発信力の向上をめざし、グループで映像制作に取り組みました。コンテストへの応募が推奨されており、テーマに沿った映像を制作しました。卒業論文を執筆する際にも、情報の効果的な伝達のために関連する映像コンテンツを制作する予定です。

行いました。また、編集作業においては一つひとつの要素に意図をもたせ、わかりやすい映像になるように心掛けました。

卒業論文にむけて

村田ゼミでは、研究プロセスや情報発信をデザインする力を育んでいきます。曖昧な思考を他者に伝わるよ

うに表現することは容易ではありませんが、徐々に形になっていく過程はとても面白いです。情報通信技術の発展は目覚ましい一方で、それだけで解決に至るほど現代社会の課題は簡単ではありません。このような時代にこそ、「人」に着目した研究を今後も続けていきたいと思っています。